

令和7年度 日本赤十字豊田看護大学 数理・データサイエンス・AI教育プログラム(リテラシーレベル)
自己点検・評価結果

「点検結果」の評価記号 ○:達成されている △:ほぼ達成されているが、改善の余地がある ×:達成されていない

点検項目	点検結果	点検結果の状況
プログラムの履修・修得状況	○	令和7年度において情報リテラシーは133名が履修し133名が単位を取得している。保健情報演習は134名が履修し133名が単位を取得している。保健統計は133名が履修し133名が単位を取得している。疫学Ⅰは127名が履修し127名全員が単位を取得している。保健情報演習の1名は退学のため未修得となった。
学修成果	○	授業評価項目「総合的に見て、本科目の到達目標を達成できた」の評価が4.5から4.7(最大5)であり一定の学習成果を達成している。 特に保健情報演習はSPSSを用いて推測統計を行う難度の高い演習課題を課しているが、同評価項目の評価が4.7(最大5)であり、十分な成果があがっていることが確認できた。本教科の「使用された教材は知識・技術を身に着けるのに役に立った」の評価が4.7(最大5)と極めて高く、これまでアップデートを重ねた資料や独自開発した「文章改善支援システムfor 保健情報演習」を提供し、学生が課題として作成した文章の評価を学生自ら行い、より習熟度を高めることを可能としている環境が有効に働いたものと思われる。
学生アンケート等を通じた学生の内容の理解度	○	授業評価において「総合的に見て、本科目の到達目標を達成できた」の評価が4.5から4.7(最大5)であり多くの学生が学習成果を実感していた。
学生アンケート等を通じた後輩等他の学生への推奨度	○	授業評価において「総合的に見て、本科目の到達目標を達成できた」の評価が4.5から4.7であり、「卒業時に期待される能力の獲得に一歩近づいた」の評価も4.5から4.7と高く、他学生への推奨度も高いことがうかがえる。
全学的な履修者数、履修率向上に向けた計画の達成・進捗状況	○	本プログラムを構成する情報リテラシー、保健情報演習、保健統計、疫学Ⅰは全て必修科目のため今後も必修科目とすることで高い履修率を保てるようにする。
教育プログラム修了者の進路、活躍状況、企業等の評価	○	本プログラムを受講し、修了した者の多くは看護師や保健師として勤務している。本プログラムで学んだことが看護師や保健師の業務の中で行われる科学的、論理的な思考の一部となっていることを期待する。 卒業後5年以内の卒業生を対象とした卒業生調査を実施しており、本教育プログラムを修了した卒業生の進路先や活躍状況の把握が可能である。また主な就職施設に対して本学の大学教育の成果に関する調査を実施しており、本教育プログラムを修了した卒業生における採用状況や就職先評価の把握が可能である。
産業界からの視点を含めた教育プログラム内容・手法等への意見	○	主な就職先は医療機関であり、就職先調査において本プログラムの効果に関わる具体的な意見は得られにくい。しかし、看護師や保健師として業務に邁進する様が伝えられ、その活躍のほんの一部でも本プログラムで学んだことが支えになっていることを期待する。 本学の取り組みに対する助言や提言を外部有識者より受けることを目的として定期的に開催している研究会において、本プログラムの内容及び社会で必要とされるデータサイエンスリテラシーに関する意見を収集し、本プログラムの改善に活用する予定である。
数理・データサイエンス・AIを「学ぶ楽しさ」「学ぶことの意義」を理解させること	○	保健統計および疫学Ⅰでは仮説実験授業の理論を応用した授業運営を行い、独自開発した意見共有システムを用いてリアルタイム参加型の講義を行っている。他の学生の意見を参考に考える仕組みを提供することで、学生同士が刺激しあいながら学ぶ環境を提供し学習意欲を高めている。 保健情報演習では統計手法を作ったピアソン、フィッシャー、ゴセットなどについて紹介をしている。現在も残る、これらの人々の暮らした家や研究にかかわった場所など教員が独自に所有する写真を多用し、これらの人々が様々な目的をもってデータ分析の方法を考案したことや、人々の交流の歴史について紹介し、統計学に興味を持てる工夫をしている。
内容・水準を維持・向上しつつ、より「分かりやすい」授業とすること	○	保健情報演習では実際の健康データを加工したものをを用いることで、看護学の専門性を踏まえた学習内容としている。 保健医療分野で広く用いられている統計ソフトSPSSを学年全員が同時に使用できる設備を擁し、卒業後、看護師、保健師としての専門性を発揮することを可能とする学修環境をそろえ、授業の内容・水準の維持、向上をはかっている。